どーやって　つかまえよう？

対象児：3歳児ゆり組
作成者：坂本七海
作成日：2025．05．13

〇ねらい：草花や虫など、自然に触れて遊ぶことを楽しむ。

〇保育の振り返り

年少さんになって1か月が経ちました。新しい友だちと戸外に出てのびのびと遊びを楽しむゆり組さん。そろそろダンゴムシが見られる時期で、年上のお兄さんお姉さんもダンゴムシ探しをしていました。ところが、ゆり組さんはなぜか葉っぱの茂みに集まり何かを探しているようでした。「テントウムシいっぱいおるんよ！」「どーやってつかまえよう？」と葉っぱに手を伸ばして恐る恐る捕ろうとしていましたが、テントウムシが何度もポトンと落ちてしまい、悩んでいる様子でした。「ちょっとバケツとってくるわ！逃げんように見よって！」と、友だちに頼んで砂場用の玩具を取りに行き、夢中になって楽しんでいました。保育者が「なるほど、考えたねぇ。テントウムシ、こわくないの？」と声をかけると、「ちょっとこわい」と笑う子や、「ぼく触れるんで！」と得意げに言う子もいました。逃げないようにざるで蓋をしたり、触ることはできないからスコップで捕ろうとしたりと、それぞれが自分なりの距離感で虫とかかわり、友だちと助け合い、協力し合いながら楽しむ姿が見られました。片付けの時間になり、「まだ捕まえたい」「置いときたい」という言葉もありましたが、「テントウムシさんにもお家があって、お父さんもお母さんも待っとるかもしれんね」と保育者が声をかけると、少し考えた後、「じゃあおったとこに戻しに行こ！」と言い、葉っぱの茂みまで返しに走っていきました。

自然とともに生きていくこれからの人生の中で、生き物に触れ、知って、理解を深めていくことは、相手の気持ちをよく考えられる思いやりの心を育む上で大切なことだと思います。現段階では『捕まえること』を楽しんでいますが、テントウムシの図鑑を用意したり、しばらく飼育してみたりと『観察する』面白さも味わえるようアプローチしていけるといいなと感じました。また、子どもたちはある程度、自分で考えることができるようになってきている年頃かと思います。一緒に楽しむことも大事にしつつ、『友だちと一緒に考えたから、自分たちでできた！』という達成感や満足感が得られるよう、見守る保育も心がけていきたいです。（自立心・思考力の芽生え・自然との関わり、生命尊重）